

今日のトピック 連休中の海外市場動向と7日の日本株市場 景気の先行き不透明感やイエレン発言などから株価は下落

ポイント1 米国株は下落

日本株も米国株安につれる展開

- 日本の連休中のNYダウ(5月4日～6日)は、3日間で1.0%の下落となりました。米国や中国などの経済指標で弱い内容のものが相次ぎ、世界的に景気下振れへの懸念が強まっていることに加え、ギリシャ債務問題への不透明感もリスク回避の動きを強める要因となっています。
- またイエレンFRB議長は6日、「株式市場のバリュエーションは総じてかなり高い」などと発言しました。これは、FRBの金融緩和策が市場のバブルをもたらしているとの批判に応じた発言ではあるものの、市場心理の悪化につながりました。
- 連休明け7日の日経平均株価は、米株市場の流れを引き継ぎ、1日の終値に対して239.64円安の19,291.99円と、約1カ月ぶりの安値となりました。

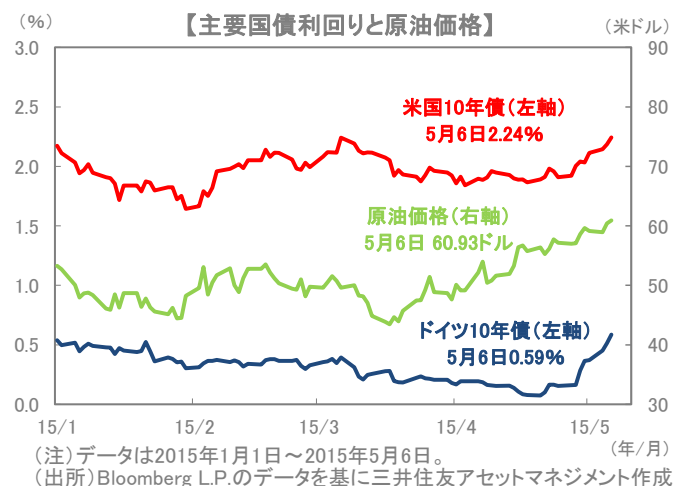
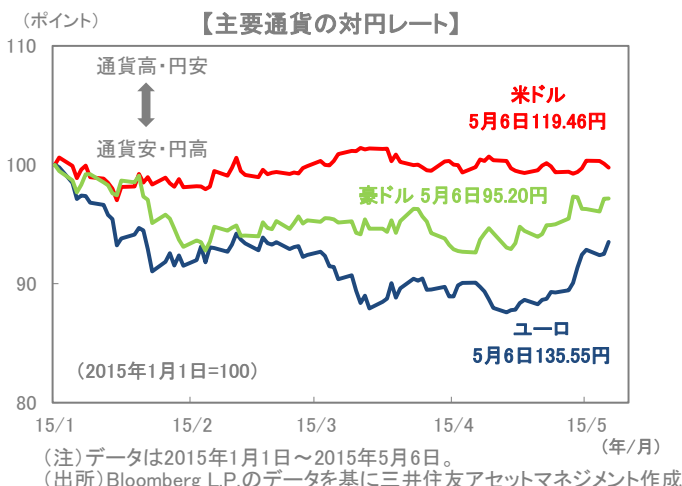
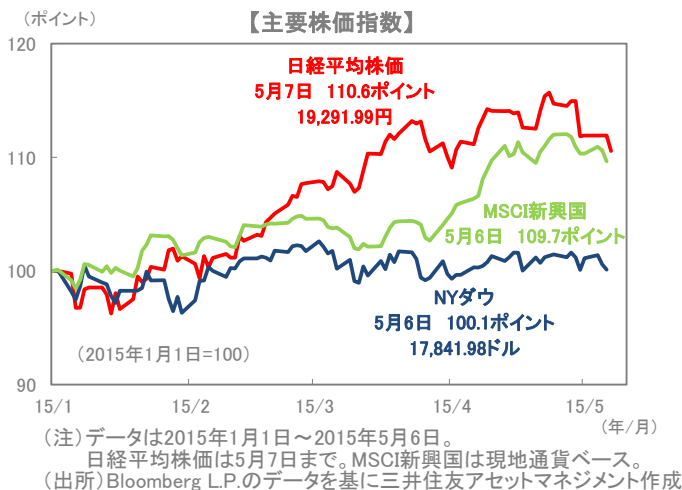
ポイント2 米ドル安傾向が継続

国債利回りは欧州債中心に上昇

- 米国景気の先行き不透明感を背景にこのところ米ドル安傾向にあります。連休中もその傾向が継続しました。米ドル安を背景に原油高も継続しました。ただし米ドル円レートについては、円を巡る材料が乏しいため、最近の119円～120円程度のレンジを外れる動きはうかがわれません。
- 一方、国債利回りは上昇傾向です。米国の利上げ見通しに加え、欧州ではギリシャ問題の解決が見えない中、主要国の財政負担への懸念が強まりドイツ国債の利回りが上昇、米国債利回りもこの影響を受けていると見られます。

今後の展開 株価は企業収益拡大を好感へ

- 世界景気の不透明感やギリシャ問題、株式需給の季節性などは、当面株価の上値を抑える要因となりそうです。年末に向けては、世界景気の回復が確かなものになるにつれ、株価は企業収益の拡大に沿った展開となるが見込まれます。



ここも
チェック! 2015年05月01日 米GDP統計と米株市場の動向
2015年04月30日 米国の金融政策(2015年4月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。